

卓話

平成 28 年 1 月 26 日

『岐阜市の観光からみた文化財等の概要について』

岐阜市商工観光部 次長 山口 晃様

■国指定史跡「岐阜城跡」 平成 23 年 2 月 7 日

- ・金華山一帯（209ヘクタール）が指定
- ・信長公が天下統一の拠点として城
- ・岐阜城跡は山頂の天守、山麓の居館跡、山の尾根など点在している砦跡などに、それぞれの役割があり、金華山一帯が要害としての役割を果たしていた。



■国選定重要文化的景観「長良川中流域における岐阜の文化的景観」 平成 26 年 3 月 18 日

- ・金華山・長良川、町と人が一体となって形成してきた、岐阜市民誰もが思い浮かべる「岐阜市の原風景」ともいえる景観。
- ・斎藤道三公・織田信長公時代から政治・文化の中心地域

■国指定重要無形民俗文化財「長良川の鵜飼漁の技術」 平成 27 年 3 月 2 日

- ・鵜飼漁は、鵜匠家が世襲で伝えてきた技術だけでなく、鵜舟や鵜籠の製作、観覧船の造船・操船技術など周りを固める技術の伝承も含め鵜飼漁の技術である。
- ・国の重要無形民俗文化財の指定を受けたことにより、ユネスコの無形文化遺産登録に向けたスタートラインに立つことができた。

■日本遺産『「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜』 平成 27 年 3 月 2 日

- ・点在する文化財群を一体的にPR、地域全体で総合的に整備・活用し積極的に発信することで地域活性化を図る。
- ・日本遺産第1号として、岐阜市を含む18件のストーリーを文化庁が認定。
- ・信長公が形作った城・町・文化は、“信長公のおもてなしの心”とともに現在も岐阜の町に息づいている。

■世界農業遺産「清流長良川の鮎」～里川における人と鮎のつながり～ 平成 27 年 12 月 15 日

- ・国際連合食糧農業機関（FAO）が、次世代に受け継がれるべき重要な伝統的農業（林業、水産業を含む）や生物多様性、伝統知識などを全体として認定し、その保全と持続的な活用を図る仕組み。
- ・長良川は流域の人々の暮らしの中で、清流が保たれ、その清流で鮎が育ち、清流と鮎は地域の経済や歴史文化と深く結びついている。
- ・里川として人が管理することで、河川環境や景観の保全・継承の取り組みが行われており、その連鎖を「長良川システム」と称し、「長良川の鮎」を象徴としている。

■ユネスコ無形文化遺産

- ・無形文化遺産（無形文化遺産保護条約）
 - 目的 無形文化遺産の保護
無形文化遺産の重要性および相互評価の重要性に関する意識の向上 等
 - 内容 「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」（代表一覧、代表リスト）の作成
「緊急に保護する必要性のある無形文化遺産の一覧表の作成
無形文化遺産基金による国際援助
 - 登録 能楽、人形浄瑠璃、歌舞伎、本美濃紙など 22 件（全体 314 件）
- ・世界遺産（世界遺産条約）
 - 対象 有形の不動産（文化遺産、自然遺産、複合遺産）

◆岐阜市の観光について

○岐阜市の観光といえば、長良川鵜飼と金華山・岐阜城であった。これに近年になり、織田信長公を加え

てPRに努めてきた。

→ **長良川鶺鴒** 過去最高乗船者数は、昭和48年(大河ドラマ「国盗り物語」)の**337,337人**(観覧船147隻)。その後は27、8万人で推移していたが、昭和61年ころから減少が始まり、観覧船の減船や旅行形態の変化なども加わり、23万人程度まで減った。平成4年(大河ドラマ「信長」オープンセット)は25万人近くまで戻ったが、さらなる減船などで平成10年頃から12万人を下回る状況が続いている。(現在観覧船45隻)

→ **岐阜城** 現在の岐阜城は**昭和31年オープン**。過去最高入場者数は、平成4年(大河ドラマ「信長」オープンセット)の**433,587人**。国盗りの年は42万人強(ロープウエーの輸送能力の差もある)。その後、平成9年の大改修以降減少し16万人台までになっていたが、平成13年に**岐阜城築城800年**を記念して**夜間開放(パノラマ夜景)**を始めた頃から回復基調となり現在は**24万人程度**に回復している。

○昨今の岐阜市観光を取り巻く情勢は、個人旅行が増えるにつれて団体旅行が激減している。併せて**インターネット**や旅行専門誌が普及し、多様な観光客ニーズを的確に掴んで対応する必要に迫られている。そんな中、急速に伸びてきたのが**外国人観光客**であり、国のインバウンド施策のよるビザ発給要件の緩和や円安基調などが追い風となっている。また、中国本土からの団体客(爆買い)で観光バスやホテルが足りない状況も社会問題になっている。

もちろん、岐阜市にも大勢宿泊されており、駅前、長良川ともに増加している。地元への経済効果も高くありがたいことだと思うが、インバウンドは政治に左右されることも多く、**日本人のお客様を大切に、質を落とさない努力が必要**。

○観光地として魅力アップを図るためには、本日説明した文化財としてのステップアップだけでは観光客は呼び込めない。これらを上手く繋ぎ、発信することで、**岐阜市のイメージアップ**を図る必要性を感じている。

○イメージアップ戦略の大きな柱となるのが、「**信長公450プロジェクト**」である。

キャッチフレーズは、**岐阜命名四百五十年目のおもてなし—受け継ぐ信長公の心—**

・2017年 **信長公岐阜入城・命名450年目の節目**を迎えることから、「**信長公=岐阜市**」をPRする絶好の契機と捉え、平成29年1月1日から12月31日までの1年間、**ブランド発信と集客**を図る。

・1567年 入城(稲葉山城)・地名(井ノ口)を「**岐阜**」と改名した。その後、足掛け10年間「天下布武」を旗印に天下統一を目指した。(34~43歳)

○これからの観光振興を考えると、行政や観光協会が主導してきた従来の**発地型観光**(都市部のエージェントが企画・造成)から、**着地型観光**(地元で企画・提案・受入)に変化していかないと現代のマーケットニーズに対応できないといわれている。

長良川流域においては、長良川温泉旅館協同組合などが中心となり、**市民自らが観光資源を発掘し、売り込むような観光地域づくり**を目的にした**長良川温泉泊覧会「長良川おんぱく」**が今年度で5回目を迎えた。5回目となった今回は、岐阜市を中心に長良川上流部の郡上市から下流部の三重県桑名市までにおいて**180のプログラム**が実施された。また、「いつでも、おんぱく」と称して、開催日を限定せず、いつでも申し込み可能なプログラムも用意されるまでになった。

この取り組みが始まった5年前から、もうひとつ大きな出来事が続いている。

それは、**観光経済新聞社**が主催して毎年選定されている「**にっぽんの温泉100選**」に**長良川温泉が5年連続**で入選している。

- ・2011年(平成23年) 56位
- ・2012年(平成24年) 40位
- ・2013年(平成25年) 57位
- ・2014年(平成25年) 37位
- ・2015年(平成27年) 41位

選出にあたっての投票権は、エージェントなどプロが有していることから、価値あるものであり、長良川温泉旅館協同組合の努力の結果である。

○これからの観光振興を図るためには、次の4項目が大切だと思う。

- ①**観光客の満足度向上** (おもてなし、まちづくり)
- ②**観光資源の魅力向上** (資源発掘、新商品開発、ストーリー性)
- ③**観光関連事業者の収益性向上** (宿泊、観光入込客数増加)
- ④**市民の意識向上** (観光地として成熟、まちなか博士、①の満足度向上につながる。)

これからも、岐阜市が「**住んでよし、訪れてよし**」の**観光都市**として認知されるよう、官民協働で取り組んでまいりますので、皆様方のご協力、ご支援をお願いいたします。